

成年後見センター開設
ヤングケアラー支援
認知症サポーター養成

ケアする人にも、される人にも安心を

明るい未来への積極投資

高校生まで医療費助成対象拡大
近視予防プロジェクト

物価高騰 迅速な支援策

2022 Obu Year In Review

10大ニュース特集号

耳をすませばー 美しい弦の音色
バイオリンの里

アインシュタインの手紙
小学生へのバイオリン授業
野外クラシックコンサート

eスポーツ・防災情報

DX

デジタルトランスフォーメーション

オンライン申請・キャッシュレス決済

4回目・オミクロン株対応ワクチンの迅速接種
ウィズコロナ・ウィズマスク
3年ぶりに再開したイベントで笑顔の人々

平和への願い

ウクライナ避難民支援
支援連絡会議・人道支援一時金・相談窓口・
生活支援・市営住宅提供・就労支援
平和への取り組み
平和映画祭・中学生平和大使沖縄派遣

悲願成就!!

大府市内に 警察署誕生へ

大府警察署(仮称)建設推進チーム発足

50th Legacy

OBUIIグラランプリ2022 開催
まちなかパラアートの新しいつながり
ビジュアルプロモーションマーク 決定

環境負荷
ゼロへ!
ゼロカーボンシティ
次世代自動車購入費補助・グリーンライフ・ポイント制度導入

水道料金基本料金の半年間無償化・
プレミアム付商品券販売・農業者支援

30年以上にわたる市民の悲願 大府警察署(仮称)誕生へ

8月29日、大村秀章愛知県知事が記者会見で、「大府市内への警察署の新設に向けた検討を開始する」と発表された。

市は、市の最優先課題として、隣接する東浦町と共に、昭和63年から実に34年もの間、両市町を管轄する警察署の誘致活動に取り組んできた。警察署を新設し、警察力を増強することで、犯罪抑止力が高まり、事件発生の際においても早期対応・解決を図ることが期待できる。

県知事の発表を受け、市は、大府警察署(仮称)の誘致を確実なものとするため、上下水道の排水路や接続する道路などの対応を検討し、「大府警察署(仮称)建設推進チーム」を立ち上げた。市は、土木や水道、広報などそれぞれの専門性を生かし、県に全面的に協力していく。



▲建設推進チーム辞令交付式



▲建設候補地

候補地を県に提案

県知事の発表翌日の8月30日、市は、大府警察署(仮称)の候補地として、月見町二丁目地内の市有地を県に提案した。県は、9月県議会にこの候補地の調査費(大府警察署(仮称)検討調査費)を含む補正予算案を上程し、10月14日に可決された。

候補地は、国道155号沿いで、JR大府駅から徒歩5分ほどの場所。現状(東海警察署と比較して、通報後のパトカーなどの到着時間が短縮されることにも)、警察官が通勤でJR大府駅を利用することにより、駅周辺の監視力が高まることが想定される。



子どもたちの健康な未来のために

医療費助成対象を高校生まで拡大

10月1日から子ども医療費の助成対象を高校生まで拡大した。昨年実施した中学生サミット」で出された、中学生からの「子ども医療費助成制度対象年齢を拡大してほしい」との要望を実現させた。

4月、産官学連携による子どもの近視予防プロジェクト



便利で住みやすいスマートシティへ

自治体DXで

3月18日、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の対象事業に市が提案した5つの事業が採用され、防災情報アプリの導入やeスポーツ施設の設定などの事業を展開している。デジタル技術の活用を通じて、市民サービス向上につなげる狙い。

7月からは市民課・税務課窓口においてキャッシュレス決済を導入したほか、個人市民税・県民税の申告、保育園の入園申し込み、行政手続きをウェブ上で行えるマイナンバーの「びったりサービス」の運用を開始した。

つなぐ平和 つなぐ笑顔

中学生がつなぐ、平和のバトン



7月28・29日、中学生平和大使が沖縄を訪問した。戦争の悲惨さや平和の大切さを、同世代をはじめ、多くの市民に伝えることが目的で、読谷村の「チビチリガマ」シムクガマや糸満市の「沖縄県平和祈念資料館「ひめゆりの塔」を見学した。

8月7日、おおぶ平和映画祭で、戦禍の沖縄を描いた3作品『かんからさんしん』『生きる 島田勲 戦中最後の沖縄県知事』『あゝひめゆりの塔』を上

映した。

10月2日、平和祈念戦没者追悼式で、平和大使一人一人が「平和に向けたメッセージ」を発表した。

ウクライナ避難民を支援

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、3月から6月にかけて、ウクライナから大府市内に10人が避難した。

3月28日、市は避難民に寄り添った支援を行うため、ウクライナ支援連絡会議を立ち上げた。先行きが見えない中、避難民

の日本滞在の長期化を見据えたもの。避難民1人につき10万円の一時金の支給や市営住宅の無償提供、共長・神田小学校での日本語初期指導教室の実施、就労支援、寄付された家財道具の搬入支援などを実施した。



環境にやさしく、災害に強いまちへ

次世代自動車購入費補助制度

4月から、環境性能に優れているだけでなく、災害時の非常用電源として活用できる次世代自動車燃料電池自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の購入費補助制度を開始した。9月20日、市は、電気自動車の日産リーフ・日産サクラを公用車として導入した。

市民参加エコアクション

2050年のゼロカーボンシティの実現に向けて、一人一人が主体となって行う身近な環境配慮行動を示したシビック・エコアクション8を10月に策定した。さらに同月、その環境配慮行動に応じてポイントを集め、記念品を獲得できるグリーンライフ・ポイント制度を開始し、市民の参加を促した。



迅速な市独自の施策で

市は、燃料価格・物価の高騰に直面する市民の生活を守り抜く緊急支援として、市独自に「水道料金の基本料金を半年間無償化」「プレミアム付商品券の販売を実施した。新聞に大きく取り上げられたほか、夕方の情報番組でも全国放送され、追隨する自治体も多く見られた。

子育て世帯への支援も迅速に打ち出した。国の給付金の対象とならない世帯に10万円を支給する「子どもたのめ」の臨時特別給付金の支給

市民の生活を守り抜く

(2月)、低所得世帯などをサポートするため、子ども1人当たり5万円を支給する「子育て世帯生活応援特別給付金(11月)、県の給付金の対象とならない高校生などを養育する家庭や児童手当の所得超過者にも子ども1人当たり1万円を支給する「子育て世帯臨時特別給付金」の支給(11月)などを実施した。

農業者へは、価格が上昇した段ボールなどの出荷用梱包資材や畜産配合飼料の価格上昇分の一部補助などを実施した。

きめ細かな支援で、健康都市の実現へ

成年後見制度利用促進 認知症サポーター養成 ヤングケアラー支援

4月、市役所に成年後見センターを設置し、市が主体的に相談対応や広報・周知する体制を整えた。8月27日、市主催で、県弁護士会・県司法書士会・県社会福祉士会・コスモス成年後見サポーターセンターの協力を得て、成年後見制度利用促進シンポジウムを初開催した。3月30日に締結した成年後見制度の利用促進に関する協定に基づくもの。

7月15日、平成30年度に目標として掲げた認知症サポーター養成2万人チャレンジを達成した。

11月から、子どもが子どもらしく生活できるように、早期発見・把握などを目的としたヤングケアラー支援モデル事業を開始した。支援モデル事業の一環として、子どもが相談しやすい環境になるよう、相談専用ダイヤル(0120-556-501)の設置や学校での相談に加え、児童老人福祉センターやまなポートで、職員が話を聞く体制を整えた。

まちに響くバイオリンの音色

日本のバイオリン王・鈴木政吉がバイオリンの音色の研究に没頭したまちで、全国的にも珍しい取り組みがスタート。実は、市に深い縁がある日本のバイオリン史。2022年は、市が「バイオリンの里」の実現を目指す初年となった。



6・7月、北山小学校でバイオリンを取り入れた音楽授業を実施し、10月20・21日には、大東・神田・大府小学校で市広報大使でバイオリンニストの水野紗希さんによる学校訪問コンサートを開催した。10月23日に水野さんらによる野外クラシックコンサート、10月28日に市内公立保育園でバイオリン音楽会を開催するなど、数々のバイオリンに関する事業を行った。



桃山町にある鈴木バイオリン製造(株)が所有する天才物理学者アインシュタインの直筆の手紙は、10月11日に放送されたテレビ東京系列「開運! なんでも鑑定団」で千五百万円の鑑定額が付いた。この手紙には、大正15年に創業者・鈴木政吉がアインシュタインにバイオリンを贈ったことを受けた感謝の気持ちがあっためられている。市は、鈴木バイオリン製造(株)の協力を得てレプリカを制作し、歴史民俗資料館で公開した。

市制50周年のレガシーを次の時代に



市制50周年Plus1記念事業として、2月17日、愛知県で初となる全国どぶろく研究大会をオンラインで開催した。どぶろくと健康に関する講演やコンテストの表彰などで、どぶろく特区の製造者などと交流を図った。

3月24日、愛三文化会館でNHK・BSプレミアム「新・BS日本のうた」の公開収録を行った。

小林幸子さんや美川憲一さんなど、豪華な顔ぶれが大府に集結し、会場は大いに盛り上がった。好評を博した記念事業を継続し、8月に大府のサクラからできたサクラ清酒「桜舞」を再販した。障がいのある方が自由な表現で描いたアート「パラアート」を、4月から市内の企業などで展示する「まちなかパラアート」、11月10日〜12月15日にふれあいバスの中に展示する「バスなかパラアート」を開催した。11月19日・20日には「OBユーザーランプリ2022 Withメディアス」を開催した。



▲パラアートを展示するボランティア

令和2年に市制50周年を迎え、次の50年に向けて歩みを始めた大府市が、さらに発展することを願い、市のイメージを視覚的に表現した「ビジュアルプロモーションマーク」を決定した。

行事再開

あふれる市民の笑顔

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベント・事業が中止・延期となっていたが、産業文化まつり・大府シティ健康マラソン大会を3年ぶりに開催した。どぶろくまつり、夏まつりなど地域のまつりも開催され、多くの市民の笑顔が見られた。



▲どぶろくまつり

▼大府夏まつり



ワクチン

希望する方へ接種機会を

5月25日、市内医療機関で、60歳以上の方への新型コロナウイルスの4回目接種が、全国で最も早く始まった。

継続的にワクチン接種を希望する方への接種機会を提供するとともに、新たに9月にオミクロン株対応ワクチン接種、11月に乳幼児(生後6カ月〜4歳)接種を開始した。

